

令和5年度 学校評価書

東温市立川上小学校

令和6年2月5日

- 1 学校の教育目標
未来を拓き、ともに生きる川上っ子の育成
- 2 経営の基本方針

○協育 みんなが協力して育てる学校 ○共育 互いに聴き合い共に育つ学校 ○響育 互いの心が響き合う学校 ○郷育 故郷に生まれ、故郷を想い、故郷に還す学校
(目指す児童の姿) ㊦ わすあいさつ ㊧ かけあひ心 ㊨ ながえ、聴き合う力 ㊩ みんなで創り、踏ん張る力

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			○考察及び●改善方策	学校関係者評価委員の評価
			教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	教育相談の充実といじめ・不登校等の未然防止、早期発見・早期解決に努めた。	3.4	3.5	3.3	○ 日頃から児童に対して、相手の気持ちを考えて行動することや情報機器の正しい使い方などについて繰り返し指導している。また、教職員内の報告・連絡・相談も積極的に進んでおり、いじめ・不登校について早期発見し、迅速に対応している。毎月の学校生活アンケートの結果を基に、教育相談の充実を努めたり、関係機関との連携を図ったりしている。 ● 時間を守ることや履き物をそろえる等の基本的な生活習慣については、引き続き学習活動や委員会活動等で児童が主体となった啓発活動を行い、定着に努めている。 ● 一人一人の児童への声掛けや目配りを重ね、安心して不安や悩みを相談できる関係を築く。	○ いじめや心配事に対して、学校がきめ細かく対応し、保護者の安心につながっている。 ○ いじめや不登校に関しては対応が難しく、信頼関係が大切である。今後も「いじめ防止基本方針」に沿って取り組んでほしい。 ○ 学校がチームで対応している様子が伝わってくる。児童がどの教師にも相談できる雰囲気があればよい。 ○ 服装や持ち物などの望ましくないことに対して、その理由を明確にすることが必要である。
	基本的な生活習慣の定着	挨拶や時間を守ること、整理・整頓などの定着に努めた。	3.0	3.1	3.0		
	生徒指導体制の整備	家庭や地域との連携を密にするとともに、報告・連絡・相談による情報共有に努め、組織として生徒指導を行った。	3.8	3.1	3.5		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	各種学習プリントの活用や「漢字の広場」「計算の広場」「朝の読書」を利用して、学習習慣の確立や基礎的、基本的内容の定着を図った。	3.2	3.2	3.3	○ 授業の中で「ことりタイム」や「全体での共有」の場を積極的に取り入れたり、授業展開を工夫したりすることにより、自分で考え、聴き合う力の育成を図っている。 ○ 家庭学習の充実については、児童・保護者とも課題に感じている。 ● 「家庭学習の手引き」を活用して家庭と連携を図り、家庭学習の定着を図る。また、基礎・基本の定着のためには、間違えたところを直し直したり、繰り返し練習したりすることが大切であることを伝えていく。タブレット端末による学習とプリントでの学習とを組み合わせながら、自主的に学習に取り組む態度を育てる。 ● 今後も課題探求型の学習課題を設定し、児童が主体的に学習する授業展開を工夫していく。	○ 授業内容の工夫が感じられる。 ○ 「ことりタイム」の取組がすばらしい。思考力の育成は、集団の中で身に付けていく場合が多いと思う。学校でこその取組である。 ○ 家庭学習については、学校の指導だけでは難しいと思う。一人一人に合った学習ができる工夫はないだろうか。 ○ 家庭でのタブレット端末の利用は、うまくつながらないことがあるという声を聞くが、タブレット端末を活用して、授業や家庭学習に自主的に取り組むことができるようになればよい。
	家庭学習の充実	家庭学習の状況を点検し、主体的に学ぶ態度を高めるなど、家庭学習の充実を努めた。	3.1	2.8	2.5		
	言語活動の充実	思いや考えを聴き合う「ことりタイム」や学級活動等で発表する場面を工夫し、考え、聴き合う力（プレゼンテーション力・他の人の意見（思い）を受け止める、自分の意見（思い）を他の人に伝える）を育成した。	3.4	3.4	3.3		
	思考力の育成	課題探求型の学習課題を明示し、授業展開を工夫することで、児童に思考力・判断力・表現力等を育成した。	3.5				
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳科を要とし、全教育活動を通じて、互いのよさ・ちがいを認め、生かし合う心、仲間とわかち合う心（コラボレーション力・だれとでも一緒に仕事（活動）ができる）を養った。	3.1	3.4	3.4	○ 今年度は、全校集会やわくわく班遊びなど、集まって活動することができるようになり、児童が主体的に活動する機会が増えた。児童が自己在感を感じ、自己有用感を育むことができるように取り組んでいる。清掃活動では異年齢集団で行い、協力して活動している。 ○ 運動会や持久走大会、縄跳び大会、「えひめITスタジアム」などに進んで取り組み、体力の向上に努めている。 ● 道徳科の授業を要として、教育活動全体で道徳教育の推進に心掛け、人の気持ちに気付き、考え、行動することができる児童の育成に努める。 ● 今後も、行事や児童会活動等の充実を努め、児童が主体となる「仲間づくり・集団づくり」、「健康づくり・体力づくり」を工夫していく。	○ 運動会の時に、上級生が下級生を気遣う様子が見られた。普段の異年齢集団活動が生かされていると感じた。 ○ 持久走大会、いきいき川上発表会、参観日、体験学習等で学校訪問し、児童と関わっていると、児童が心豊かに育ってきていると感じる。 ○ 朝の挨拶の様子などから、心が育っていることが感じられる。 ○ 健康づくり・体力づくりについては、毎日の歩いたの登下校が大きいと思う。
	仲間づくり・集団づくり	異年齢集団活動や児童主体の活動を通して、みんなで作る力（イノベーション力・仲間と共に新しいことに進んで取り組む・少々のことではくじけない）を育成した。	3.0	3.4	3.3		
	健康づくり・体力づくり	自らの健康に関心を持たせ、保健指導を通して自己管理能力の育成に努めるなど、健康の精神を培った。また、体力面の課題を把握し、体育的活動の充実を図り、健康の保持と体力・運動能力の向上を図った。	3.3	3.5	3.5		
	食育教育の充実	食に関する指導を通して、食についての関心を持たせ、望ましい食習慣の形成や食生活の改善に努めた。	3.0	3.3	3.1		
特別支援教育	特別支援教育の充実	児童一人一人に応じた学習指導や生活支援に努めた。	3.2	3.4	3.2	○ 児童一人一人の困り方の違いや多様性に気付き、助け合う安心感のある学級経営をすることができるよう、研修をし、教職員の感性を磨いている。 ● 児童には、困ったときに「助けて。」と言えることが大切であることを伝え、諦めずに取り組むことができる力を育てていく。 ● より学びやすく、生活しやすくなるユニバーサル・デザインの学級・授業経営に取り組んでいく。	○ 学習能力の個人差に対して、様々な面から工夫されていると感じる。 ○ 個に応じた支援を必要とする児童に対し、引き続きお願いしたい。 ○ 保護者の方からの要望もあるので、支援の在り方について考えていってほしい。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	登下校の安全確保に努めるなど、家庭や地域・関係機関と連携して児童をまもり育てた。	3.2	3.6	3.5	○ 登下校の安全確保に関しては、保護者の方や地域の方の見守り、教職員の登下校指導など、多くの目で見守り活動を行うことで大きな事故やけがなく登下校することができている。 ● 地震発生時の避難の在り方について、過去の事例から避難訓練の方法について見直しを行った。地震発生時の基本的な行動の仕方を理解し、安全を確保するための訓練を今後も行っていく。	○ 地域の見守りの協力にいつも感謝している。 ○ 地域の人がよく一緒に歩いているのを見掛ける。とても心強い。 ○ 学校での防災意識が高まってきていると思う。定期的な防災訓練を続けることが大切である。
	防災教育の充実	教科等における防災学習や行事等で防災指導を適切に行い、災害に適切に対応する能力の基礎を培った。	3.3	3.8	3.5		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	学校や学年、学級の教育活動に対して、保護者や地域住民、外部人材等の参画及び協力を得た。また、学校運営協議会は、「地域とともにある学校づくり」を進める中核としての機能を果たした。	3.0	3.3	3.4	○ 今年度は、校外学習や体験学習も増え、保護者や学校運営協議会、協働活動サポーターと連携・協働し、児童の教育活動を支えることができた。 ● 今後も川上小学校の校訓でもある「健康・奉仕・親善」が実現するよう、全教職員で共通理解を図り、家庭・地域と協力しながら活動を進める。 ● 「校報かわかみ」や学年だより、本校のホームページなど発信する情報の充実を努め、本校の教育活動についてより理解していただけるように啓発をしていく。	○ 放課後子ども教室がとてもよい。 ○ 参観日、学級PTAなどに対して保護者の要望について検討し、改善できることと難しいことをはっきりとさせる。そして、学校側の思いやねらいも提示し、保護者に理解してもらってほしい。
	PTA活動への協力	各種PTA活動に参加したり、協力したりした。	2.9		3.4		
	情報の共有化	積極的な情報公開・情報の共有化に努め、学校・家庭・地域が息の合った教育活動を推進した。	3.0		3.5		
特色ある学校づくり	青少年赤十字活動	わくわく班活動やJRC活動への主体的参加を通して、奉仕や協働の精神を培った。	3.0	3.3	3.1	○ 運営委員会が中心となって挨拶運動に取り組み、全校に広げている。しかし、地域の方や見守り隊の方への挨拶は十分にできていない状況である。 ○ 緑の羽根募金や赤い羽根募金では、多くの児童の協力があり、「健康・奉仕・親善」の意識を高めることができた。3学期には、運営委員会の発案で、石川県の地震で被害を受けた方のための募金活動を行った。 ● どのようにすれば友達や地域の方にも気持ちのよい挨拶を広げることができるか、児童とともに考えていく。	○ 挨拶に関しては、繰り返し児童に伝え、大人が見本を示していく。その積み重ねが児童に伝わっていくと思う。まずは、大人が挨拶することから始める。 ○ 挨拶運動に関しては、学校・家庭・地域とそれぞれのところで「気持ちのよい挨拶」の意義を啓発できればと思う。 ○ 地域の見守りの方の挨拶も有効だと思う。
	挨拶運動	校内や地域で進んで挨拶を交わす児童（コミュニケーション力・だれとでも意見交換ができる）を育成し、親善の精神を培った。	2.8	3.3	3.1		
施設・設備の充実	ICTの有効活用	タブレット端末やICT機器を有効に活用し、分かりやすい授業づくりに努めるとともに、情報機器の適切な利用について指導した。	3.3	3.5	3.1	○ タブレット端末や各学級に設置されたプロジェクターを活用し、より分かりやすい授業に努めている。11月に大型液晶ディスプレイ3台が設置され、様々な学習活動で活用することができるようになった。 ● 今後も、情報モラル教育やICT機器の効果的な活用について教職員で研修に努め、環境整備を進めていく。	○ 不登校の児童が、タブレット端末を利用した支援を受けられるよう、徹底していただきたい。 ○ 気持ちのよい環境づくりの充実は、子どもたちにとって心身ともによい影響を与えることと思う。引き続き環境整備の充実をお願いしたい。
	施設・設備の安全管理	安全点検の日常化を図り、安心・安全な教育の場づくりに努めた。	3.4	3.7			
	校内環境の整備	季節感のある校内掲示や栽培活動への取組を行い、花と緑の美しい、潤いのある学校づくりに努めた。	3.0		3.3		